

建築作品部門

低炭素社会の推進

建築物の低炭素化の推進、再生可能エネルギーの積極的活用

長野県下伊那郡中川村

南駒ヶ岳を望む家

田舎に住む。愛知県知立市よりの移住



- ▶当事務所としての標準化工法。
三尺ピッチの床、小屋梁
ワンウェイ梁の金物工法(プレカット可)
- ▶屋根は全て下向き作業
- ▶外壁は室内耐力壁とし気密層を兼用した耐力が高く、対結露防止施工も容易な壁。
- ▶外壁付加断熱 $120+55=175$
各所、外壁及び屋根通気経路の明示

- ▶真西方向になる南駒ヶ岳に眺望を向くプランは西日との戦い。片流れ屋根と雁行形プランが生み出す形態と、外部ルーバーで西日の影響を最小限に。喫茶1階大庇の下はカウンター席として、南駒ヶ岳の真正面に眺望が向かう
- ▶地域とつながる喫茶店営業。名古屋流のおもてなしの店として地域の人々と直接交流が広がる拠点にしていきたいと願った。
- ▶農作業場ともなる開放された車庫と外部倉庫が敷地に仕切り感を生み出す
- ▶冬期の晴天率の高さを取り込むOMソーラーの採用。+ 薪ストーブ（喫茶）+ペレットストーブ（リビング） 暖房としてのCO2排出はゼロ。
- ▶室内は根羽杉の架構がそのまま見える構造即意匠の潔いインテリア。
- ▶これから行う外部植栽はパーマカルチャー的な緑化計画を検討中。
- ▶リニア時代を迎える南信州。伊那谷らしい生活感を演出。

愛知県知立市に住むMさんは、週末農業で伊那谷に通う事、約6年。そこで行われている農を知り・人を知り・その環境に惚れて、いわゆる「ターン」として南駒ヶ岳を望める中川村の地に移住する。同じ伊那谷南部の根羽村で産出される“根羽杉”ほぼ100%で組み上げる当事務所として標準化した構造は、断熱気密施工を確実なものとし、吹抜が高い空間の一次エネルギーの削減に寄与する。外壁の杉板と濃色の左官壁は、遠くの冬山の白と一体となって伊那谷の透明感を演出する。片流れと、眺望の利く西側の夕日を遮蔽するプランから生み出された雁行形の外観がポイント。妻面が濃色の左官壁、桁行き面は杉板張りとした。



応募代表者：新井 優

新井建築工房+設計同人NEXT

昭和51年飯田市(株)桂建築設計事務所
昭和59年飯田市(有)みすゞ設計
平成8年新井建築工房+設計同人NEXT設立
実務経験年数40年

有志で“伊那谷の森で家をつくる会”を立ち上げ二十数年、環境共生型建築を数多く手掛けてきた。身近な環境を考え地域材で家をつくるのが、伊那谷のデザインコードになって行ければ。この地域の本当の豊かさを次世代に伝えられる様な活動をしてきたい。

